



2021年1月29日

各 位

会 社 名 株式会社ドウシヤ
 代 表 者 名 代表取締役社長 野村 正幸
 コード番号 7483 東証第1部
 問 合 せ 先 常務執行役員 小柳 伸成
 (TEL: 06-6121-5666)

2021年3月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2020年10月30日に公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

●業績予想の修正について

1. 2021年3月期通期(2020年4月1日～2021年3月31日)の業績予想の修正

(1) 連結

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	101,000	8,600	8,800	5,900	167円09銭
今回発表予想(B)	101,000	9,300	9,500	6,400	181円25銭
増減額(B-A)	—	700	700	500	—
増減率(%)	—	8.1	8.0	8.5	—
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	96,238	5,995	6,260	4,211	114円61銭

(2) 個別

(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	91,000	7,500	5,150	145円85銭
今回発表予想(B)	91,000	8,000	5,500	155円76銭
増減額(B-A)	—	500	350	—
増減率(%)	—	6.7	6.8	—
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	87,712	5,939	4,230	115円12銭

2. 修正の理由

当社グループは、今回のコロナ禍だけでなく、どのような環境下においても、「開発型ビジネスモデル」と「卸売型ビジネスモデル」の併用によって、顧客の求める商品をスピーディーかつ安定的に市場に提供する組織体制と財務基盤を持ち合わせており、それが今後の継続的な成長基盤として、企業価値の向上を図っております。

その上で、第2四半期累計期間までの業績動向を踏まえ、2020年10月30日に通期業績予想の修正を公表いたしました。第3四半期累計期間の業績についても、開発型ビジネスモデルにおいて、LED照明にサーキュレーター機能を組み合わせた「サーキュライト」シリーズが、快適な空間づくりや換気による感染症対策の効果もあり引き続き好調なほか、2020年11月に発売した「猫舌専科タンブラー」がメディアやSNSで話題となり店頭で品薄状態が続くなど、他社にない切り口の企画・開発商品が好調に推移しました。

また、トップシェアを確保している氷かき器やスチールラックに加え、こびりつきにくい性能で人気のフライパン「evercook（エバークック）」などが、ウィズコロナ時代の巣ごもり需要やテレワーク需要を受け、好調に推移しました。

卸売型ビジネスモデルでは、宅配おせちが、年末年始の帰省・旅行控えもあり好調な販売となったほか、スポット販売を中心とした日用品雑貨関連では、当社グループの持つ幅広い仕入先・得意先のネットワークを活かしたスピーディーな調達・販売により、除菌スプレーやマスク、衛生用のビニール手袋など衛生関連商品の販売が好調に推移しました。

それらの結果を踏まえ、連結・個別ともに各利益が前回予想を上回る見通しとなりました。

(注) 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であります。

従いまして、実際の業績は様々な要因によりこれらの予測数値と異なる可能性があります。

なお、新型コロナウイルス感染症による業績への影響について、当社において、今後の感染拡大状況を予測することは困難であることから、2021年1月現在の状況から大きな変化がないことを前提として、予想しております。

以上